



NTTの「ご意見番」からはずれた東大大学院教授・醍醐聡さん

NTTは「競争原理主義者」と煙たがる。通信政策を扱う情報通信審議会の年明けの人事で、委員に再任されなかった。再任されれば8年を超える長期在任が理由だった。

が、同じ時期に就いた別の委員は留任した。「事実上の解任では」と抗議したが、総務省は「会長ら幹部委員は例外」という新ルールを直前に作って退けた。

新電電などがNTT回線を使う際に支払う接続料問題。審議会は昨秋、「NTT東西で別料金に」とする答申を出した。その取りまとめの中心人物。「NTT東西は別会社でコストも違う。それを反映させ、両社の競争を促せば利用者の利便向上になる」と考えた。

総務省の反対は振り切ったが、NTTが「通話料金の地域間格差につながる」と激怒。11月の臨時国会で「東西均一の維持」を決議され、葬られた。

時価会計や連結会計の研究が専門。NTTとのかかわりは85年の民営化に伴う会計制度づくりが契機だ。「情報通信は横綱（NTT）中心の相撲型でなく、横一線で走るマラソン型に」を持論とする。同じ条件下での「平等な競争」を頑固に唱える学究は、自身も本格的な長距離ランナーだ。

退任後、同僚らへの礼状に、詩人の茨木のり子さんの作品の一部を添えた。

「初心消えかかるのを 暮しのせいにはするな.....駄目なことの一切を 時代のせいにはするな」

自らを戒める言葉でもある。(文・宮崎太介 写真・吉永考宏)

(『朝日新聞』2003.02.02 朝刊【ひと】)